

### 第60回福島県農業賞

## さんへ農園が「特別功労賞」を受賞

8月27日、「第60回福島県農業賞」の表彰式が福島市で行われ、(有)さんへ農園(大倉)が「特別功労賞」を受賞されました。県農業賞は、県内の農業分野では最も権威ある賞で、経営改善や後継者育成などに積極的取り組み、地域の模範となる優れた経営を実践する方を対象に表彰するものです。

今回は、創設60周年を記念し、過去第41回から第50回までの表彰者の中から選ばれる「特別功労賞」が設けられ、受賞後の法人化での事業拡大、新規就農者へのトマト栽培研修や加工品の製造実績などの、さらなる活動が高く評価され、見事受賞となりました。

当日は、三瓶清志社長夫妻が出席し、内堀知事から表彰状が手渡されました。



▲内堀知事(中央)から功績を称えられた三瓶清志さんとやえさん

### 移住者の増加を目的に

## 移住体験ツアーを開催

8月24～25日、本町の魅力や暮らしを伝える移住体験ツアーが開催され、首都圏から13人の方が参加しました。参加者は、2日間に渡り、南郷トマトの栽培現場や米焼酎「ねっか」蒸留場、「恵みの森」などを訪れ、町の魅力に触れました。また、移住後の生活をイメージしてもらうため、町内のお試し移住体験住宅の見学や既に本町に移住し、生活している方々との交流会も行いました。

参加者から、「只見の生活に魅力を感じた」などの意見が上がったことから、今後もこうしたツアーを開催し、町の魅力を積極的に発信していく予定です。



▲ガイドとともに恵みの森を散策した参加者の皆さん

### 第七次只見町振興計画 専門部会

## 今年度第一回目となる 評価検証会議を開催

8月28日、本町のまちづくりの指針となる「第七次只見町振興計画」(平成28年3月に策定)の評価検証会議が朝日振興センターで開催されました。

振興計画(10ヶ年)は、2年毎の実施計画に基づいて進められており、4、7、10年目には専門部会を中心に評価検証を行うこととなっており、同会議には、専門部員の皆さんが5つの分野に分かれて参加し、着手状況や重要度、満足度などの観点から各事業の評価を行いました。今後は、町民アンケートの実施が予定されており、その結果をもとに2回目の会議を開催し、4年目の評価をする予定です。



▲出席した40人が5つの分野に分かれ、各事業の評価などを行った

### 人材育成ダイヤモンドプラン

## 「只見じゃないとできないこと」をテーマに講座を実施

9月2日、各分野で活躍する人材を育てる「人材育成ダイヤモンドプラン」10期生の講座が只見振興センターで行われ、受講生5人が参加しました。今年6月に視察をした「Chus(チャウス)」(那須塩原市)オーナーの宮本さんを講師にお招きし、自身の体験を交えながら、「その場所でないといけないこと」に焦点を当ててお話しをいただきました。その後、参加者全員で「只見で何をし、どういう場所にしたのか」などを中心に意見交換を行い、自身の想いや今後の活動等について再確認する良い機会となりました。



▲円になり意見交換を行う参加者の皆さん(右から2番目が宮本さん)





▲「河井継之助が遺したもの」をテーマに講演する  
長岡市河井記念館の稲川館長

8月25日と9月8日、戊辰戦争後151年目の取り組みの一つである第二回戊辰セミナーと戊辰講演会が只見振興センターで行われ、それぞれ約60人が町内外から参加しました。戊辰セミナーでは、福島県立博物館の阿部綾子学芸員より「絵詞（絵巻物）」に沿って会津籠城戦時の様子や人々の想いを、講演会では、長岡市河井継之助記念館の稲川明雄館長より司馬遼太郎著「峠」から見た継之助像の解説や、当時長岡藩を受け入れた町民の精神を語り継いでいくことの大切さについて講演をいただきました。

後世に伝え残していくために  
今年度第二・三回目の戊辰セミナーを開催



▲バケツにイワナの稚魚を入れてもらう児童

9月11日、朝日小学校1・3年生15人がイワナの稚魚の放流体験を黒谷川で行いました。団体験は、川の魚を守る・減らさないための取組を子どもたちに知ってもらおうと、南会津西部非出資漁業協同組合が初めて実施したものです。児童の皆さんは、それぞれのバケツに入った稚魚（全部で2000匹）を一齐に川に放流し、泳いでいく姿を夢中で追いかけてながら「元気に大きくなってね！」などと口々に声をかけていました。

魚の多い豊かな川に  
イワナの放流体験を実施



▲機械設備の説明を熱心に聞く児童（浄水場ポンプ室）

9月11日、只見小学校の4年生（11人）が上下水道の施設（浄水場、浄化センター）見学学習を行いました。同学習は、毎年町内の3小学校で実施されており、今年7月に行われた朝日・明和小学校に続き、只見小学校で実施された形となります。当日は、管理会社の社員や町の担当職員が授業形式で問題などを出しながらわかりやすく施設や事業の仕組みを紹介し、児童たちは、楽しみながらも熱心に、普段の生活とともにある上下水道、そして水の大切さを学びました。

施設見学学習を通じ  
只見小児童が上下水道の大切さを学ぶ



▲「明治27年の新道竣工と県道編入運動」と題して行われた講演

9月22日、季の郷湯ら里で「八十里越りレー講演会」が開催され、約40人が参加しました。同講演会は、只見町・三条市・魚沼市の持ち回りで例年行われており、八十里越旧道に関する知識の共有を通じ、地域間の交流を深めることが目的となっています。講演会では、本町教育委員会より八十里越旧道の概要や調査結果の説明がされた後、八十里越調査保存整備委員の阿部俊夫さんが、当時の日誌や上申書をもとに、道路の竣工や開通に係る歴史などについて解説を行いました。

八十里越の知識を共有する  
「八十里越りレー講演会」を開催